

# 福島のおゆき国会日誌

## <低調な予算審議 既存政党の枠組みの限界が露呈>



28日、本会議で令和5年度予算案が可決され衆院を通過し、年度内の成立が確実となりました。

来年度予算案は、額が史上最大規模であることのみならず、5年間で43兆円の防衛予算の在り方やその財源など、歴史的に重要なものでした。言うまでもなく、これらはすべて今と未来の国民の負担によって賄われるものですから、国権の最高機関たる国会では国民の皆さんの選択に資するような論点の対立がわかるような議論をしなければなりません。

しかし、この国会の議論は極めて低調で、今日の本会議の自民党議員の賛成討論では、審議拒否などを行わなかった立憲民主党への感謝の言葉が述べられたほどです。

今の政党の枠組みでは、日本は落ちるところまで落ちてしまいます。私たち有志の会5人で結束して、何とかしなければなりません。

本会議終了後、岸田首相が私たちの会派控室にあいさつにいらっしゃいましたので、私たちからは不誠実な国会答弁に一言申し上げました。

所感をYouTube配信しましたので、ぜひご覧ください→



## <「空襲議連」役員として議員立法成立に邁進>

父の実家が両国と神楽坂にあり、共に東京大空襲の被害に遭っています。そんな縁で、空襲被害者へ甲慰金を給付する法案を議員立法で行う超党派の議員連盟の役員として、活動しています。3日に全国空襲被害者連絡協議会の院内集會が開催され、挨拶をさせていただきました。



残念ながら与党内で理解を完全に得られず、なかなか進みません。遺骨収集と並んで、戦後78年経ってもまだ戦後処理を終わらせられていないことが、日本の戦後のだらしなさを物語っています。選挙のためでなく、一国会議員の任務として、これらの問題に取り組んでまいります。

## <法案審議に向けて準備>

予算案の審議が参議院に回りましたので、来週から始まる委員会の準備を本格的に始めています。国土交通省の地域交通に関する法案、復興庁の帰還困難区域を解除していく法案などについて説明を受けました。法案審議に向けてしっかりと勉強してまいります。今後の国会での活動にご注目ください。



## <雑誌「維新と興亜」にインタビュー記事>



若手真正保守論客が編集する言論誌『維新と興亜』に、「既成政党に國體は守れない」というタイトルのインタビュー記事を掲載していただきました。「國體と政治」という特集の一環です。

言うまでもなく「国体」という概念は、水戸学の会沢正志斎の『新論』に負うところが大きいのですが、私は政治家が「国体」について話すことには眉唾が必要だと考えています。

他の論者と全く違うことをお話ししておりますので、ご興味のある方はぜひご購入の上ご一読下さい。